

理学療法特講 (急性期内部障害)

《履修上の留意事項》演習を行う際、体調不良を伴う場合は被検者になれないため事前に申告すること。

《担当者名》 澤田篤史 as-51@hoku-iryo-u.ac.jp 阿部隆宏 多田菊代

【概要】

内部障害理学療法学や内部障害理学療法学演習で習得した知識をもとに、急性期の内部障害領域における理学療法評価とリハビリテーションアプローチの基本技術、リスク管理方法に関して、演習を通じ身につけることを目的とする。

【学修目標】

一般目標

急性期の内部障害を構成する疾患・障害の基本的な理学療法評価および理学療法プログラムを安全に実行できる能力を身につける。

行動目標

1. 生化学検査や生理検査の結果を基に、急性期の病態について説明できる。
2. 得られた評価項目から問題点を整理し、理学療法プログラムを立案できる。
3. 各疾患に応じた基本的な評価・理学療法手技を実践できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------------|-------------------|---|----------------------|
| 1) 2 | 生化学検査と理学療法 | 急性期に特徴的な生化学検査の項目とリハビリテーションへの影響を学ぶ | 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代 |
| 3) 4 | 急性期におけるリスク管理と早期離床 | 急性期におけるバイタル変化とリスク管理 急性期における早期離床手順を学ぶ | 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代 |
| 5) 6 | 急性期の呼吸ケア | 呼吸音の聴診や体位ドレナージを学ぶ | 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代 |
| 7) 8 | 循環器の評価 | 心肺運動負荷試験の方法を学ぶ 心肺運動負荷試験の結果の解釈と運動処方 | 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代 |
| 9) 10 | 急性期の呼吸ケア | 人工呼吸器の仕組みと呼吸モードを学ぶ | 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代 |
| 11) 12 | 急性期の呼吸ケア | 人工呼吸器の取り扱いについて学ぶ | 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代 |
| 13) 14 | 急性期の呼吸ケア | 気管吸引と排痰器具の方法を学ぶ | 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代 |
| 15 | まとめ | これまでの講義内容に基づき総合討論を行う | 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

演習後のレポート100%

【教科書】

講義内で資料を配布する

【備考】

内部障害理学療法学の講義で配布し、使用した講義資料および講義ノートを適宜使用する。

【学修の準備】

1. この演習は、生理学、生理学実習、運動療法学、内部障害理学療法学および内部障害理学療法学演習に基づいて行われるものであり、学修の準備としてこれらの授業ノートや参考書・関連図書を毎回の授業に合わせて十分復習をしてから講義に臨むこと。(80分)。
2. 復習は授業資料だけではなく、教科書や参考書を活用して毎回の授業に関連する内容を十分理解すること(80分)。

【服装・必要物品】

1. 演習時には実習着で臨むこと。
2. 胸部を聴診する演習や胸部に電極貼付を伴うため、着脱のしやすい服装で臨むこと。
3. メジャー
4. 聴診器
5. その他、講義に必要な物は事前に説明する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP3) 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

澤田篤史(理学療法士)、阿部隆宏(理学療法士)、多田菊代(理学療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

内部障害領域における実務経験に基づいて、実践的な知識・技術の習得を目指した講義を行う。